

令和7年度 きゅうり 技術情報 No.3

大船渡農業改良普及センター（電話：0192-27-9918、FAX：0192-27-9936）



- 7月は病気では**べと病**に加え、高温が続く場合は**炭疽病、褐斑病、うどんこ病**、害虫では**ハダニ類、アブラムシ類**に注意が必要です。
- 早期に発病葉を摘葉**し、追加の特別散布を実施しましょう。

1 7月に注意が必要な病害虫

病害虫名	4			5			6			7			8			9			10			
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	
アザミウマ類(ハウス)																						
ハダニ類																						
アブラムシ類																						
べと病																						
うどんこ病																						
黒星病・斑点細菌病																						
炭疽病・褐斑病																						

□:発生時期 ■:重点防除時期

- 収穫の最盛期を迎えると、成り疲れで病害虫が発生しやすくなります。
- 炭疽病、褐斑病は高温で降雨が多いと発生が早まるため、予防散布を心掛けましょう。
- 被害が拡大する前に特別散布に切り替えて、病害虫防除を徹底しましょう。

2 病害虫防除のポイント

◎発生源となる発病葉の除去

- 病害が目立ってからの防除では十分な効果が発揮できません。初発時に**病葉を摘葉**すると**褐斑病や炭疽病の広がりを遅らせる**ことができます。
- 初期の**発病葉を摘んだ後、直ちに効果の高い薬剤を散布**しましょう。薬剤を選択する際には、「令和7年度 夏秋きゅうり特別散布農薬一覧」を参考にしてください。

◎農薬散布はアーチ両側から十分量を丁寧にしてください

- 散布むらは病害虫の取りこぼしや、耐性菌の発生につながり、新たな発生拡大の原因になります。防除の際は必ず、アーチの両側から十分量を丁寧にしてください。

◎降雨前の殺菌剤散布を徹底してください

- 病害の感染は、降雨や結露によって広がります。継続した降雨前（感染前）に実施しましょう。降雨の前に薬液が乾けば、効果に影響はほとんどありません。

3 特別散布農薬（一部抜粋）

病害名	農薬の名称	FRAC コード	使用時期	本剤の使用回数	希釈倍数
べと病	ベトファイター 顆粒水和剤	27+40	収穫前日まで	3回以内	3,000 倍
	ランマン フロアブル	21	収穫前日まで	4回以内	2,000 倍
	エトフィン フロアブル	22	収穫前日まで	4回以内	1,000 倍
	ゾーベック エンテクタ SE	21+49	収穫前日まで	2回以内	4,000 倍

令和7年6月25日の農薬登録情報に基づいて作成しています。
農薬の使用は、必ず容器のラベルで使用基準（適用作物、単位面積当たりの使用量や希釈倍数、使用時期、有効成分の種類ごとの総使用回数）や注意事項を確認し、農薬使用者が責任を持って使用してください。

4 ホモプシス根腐病対策

- 収穫開始から8月にかけて発生が多くなります。収穫初期では、日中に**葉が萎れ**、夕方に回復します。萎れと回復を繰り返すうちに、徐々に**下葉から枯れ上がります**。
- 土壌伝染性**の病害です。他の生産者の圃場を訪問する際は、**靴カバーの使用**や**ビニール袋で靴を覆う**等、病原菌の拡大防止に努めましょう。



日中は葉が萎れる



病気が進行し、枯れた株

★**いわてアグリベンチャーネット** URL: <https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/>
岩手県からのお知らせに加えて、農業技術情報や病害虫に関する情報、各地域の情報など盛りだくさんです。ぜひご覧ください！！

★**6月1日～8月31日は農薬危害防止運動**

農薬を安全かつ適切に使用するために、農薬ラベルでの使用基準の確認、使用履歴の記帳を徹底しましょう。